

資料 1

第 9 次森町総合計画

(基本構想 答申案)

平成 2 9 年 2 月

<目 次>

第1章 まちの将来像 1

第2章 まちづくりの基本目標..... 3

第1章 まちの将来像

私たちの森町は、静岡県西部地区、遠州のほぼ中央部、日本のほぼ中心に位置し、当町面積の7割を超える森林と清流を有する美しい自然環境、恵まれた食、脈々と受け継がれてきた伝統文化を背景に、古都・京都を彷彿させる美しいまちづくりなどから、「遠州の小京都」を標榜してきました。

さらには、国土軸である新東名高速道路の開通により、広域交通拠点となるインターチェンジや掛川と結ばれる天竜浜名湖鉄道沿線の5駅を町内に有する、交通の要衝として、利便性の高い環境が備えられてきています。

また、この10年間のまちづくりとして、平成18年度に策定された第8次森町総合計画では、「ええら森町！～みんながチカラの郷づくり 古きをいかして新しきを創る～」を将来像に掲げ、将来像の実現に向けた5つの目指すべき方針に基づき、各施策・事業の推進を図ってきたところです。

この第8次総合計画の策定から10年が経過する中、人口減少・少子高齢化の進行、社会経済のグローバル化、東日本大震災を契機とした防災やエネルギー問題への意識の高まり、ライフスタイルや価値観の変化による町民ニーズの多様化など、まちを取り巻く環境も変化してきています。

また、全国的な人口減少が課題となっている今、当町でも、人口減少、少子高齢化が一層進むとともに、近い将来には、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)のいずれも減少していくことが見込まれます。このため、森町で生まれる子どもが増えていくことと併せて、雇用の場を確保することや、より住みやすい環境づくりと多様な行政サービスの展開などにより、一時的に転出している若者を呼び戻すことで、町外からの転入増を図っていくことが求められます。

すなわち、自治体も選択される対象のひとつと考え、多くの人に「行ってみたい」、「住みたい」と選んでもらえるような森町にしていくことが必要とされています。

このような状況の中、町民一人ひとりの豊かな暮らしの実現と、多様な交流を育み、誰もが明るい未来を描くことができる環境を整えていくため、まちの「強み」(①「遠州の小京都」といわれる景観、歴史・文化資源、多彩で高品質な農作物、②新東名高速道路の森掛川インターチェンジ、遠州森町スマートインターチェンジ設置による産業拠点形成及び交流人口拡大の要素、③高いお達者度)を伸ばしながら、「選択と集中」により、これからの時代にあったまちの姿を創造し、未来への目標を町民と行政が共有して、着実にその歩みを進めていくことが求められます。

こうしたことから、人口減少を克服し、活力ある町を今後も維持するため、新しい総合計画が目指すまちづくりの基本理念として、次の3つを定めます。

I 「人の輪」～外部との交流～

- ・まちの活力維持のため、町内のみならず、町外とのさらなる交流により「人の輪」が生まれる
- ・森町に住む人、森町で事業を行う人、行政、そして、町外の森町ファンといった、森町にかかわるすべての人の「人の輪」がつながる
- ・これらが生み出すパワー、活力がまちづくりに最大限いかされ、さらに「人の輪」が広がっていく

II 「対話」～信頼の構築～

- ・町民と行政の信頼関係をつなぎ、様々な場面での「対話」によって、町民が声を出し、自らも参加する、きめ細やかなまちづくりが進む
- ・森町に住まい、学び、働く、様々な立場の人々、さらには個性を持った各地域との「対話」を続けながら、さらに深い信頼関係が生まれていく

III 「調和」～人と自然～

- ・森は深い山々に抱かれている
- ・この山々を源とする水は、田畑を潤し、人々の営みを助け、花を咲かせ、実を实らせ、あらゆる生命を育む
- ・山々には、あらゆる生命を育み、人々の心を癒す不思議な力がある
森は天地の恵みで、住む人も訪れる人も心癒される、やさしさのあるまちになる
- ・人と人、地域と地域、人と自然、古いものと新しいものが、この森のなかに「調和」し、さらに新たな魅力や活力が生まれていく

以上の3つの基本理念を踏まえ、森町が目指す「まちの将来像」を

将来像：住む人も訪れる人も「心^{やわ}和らぐ森町」

と定めます。

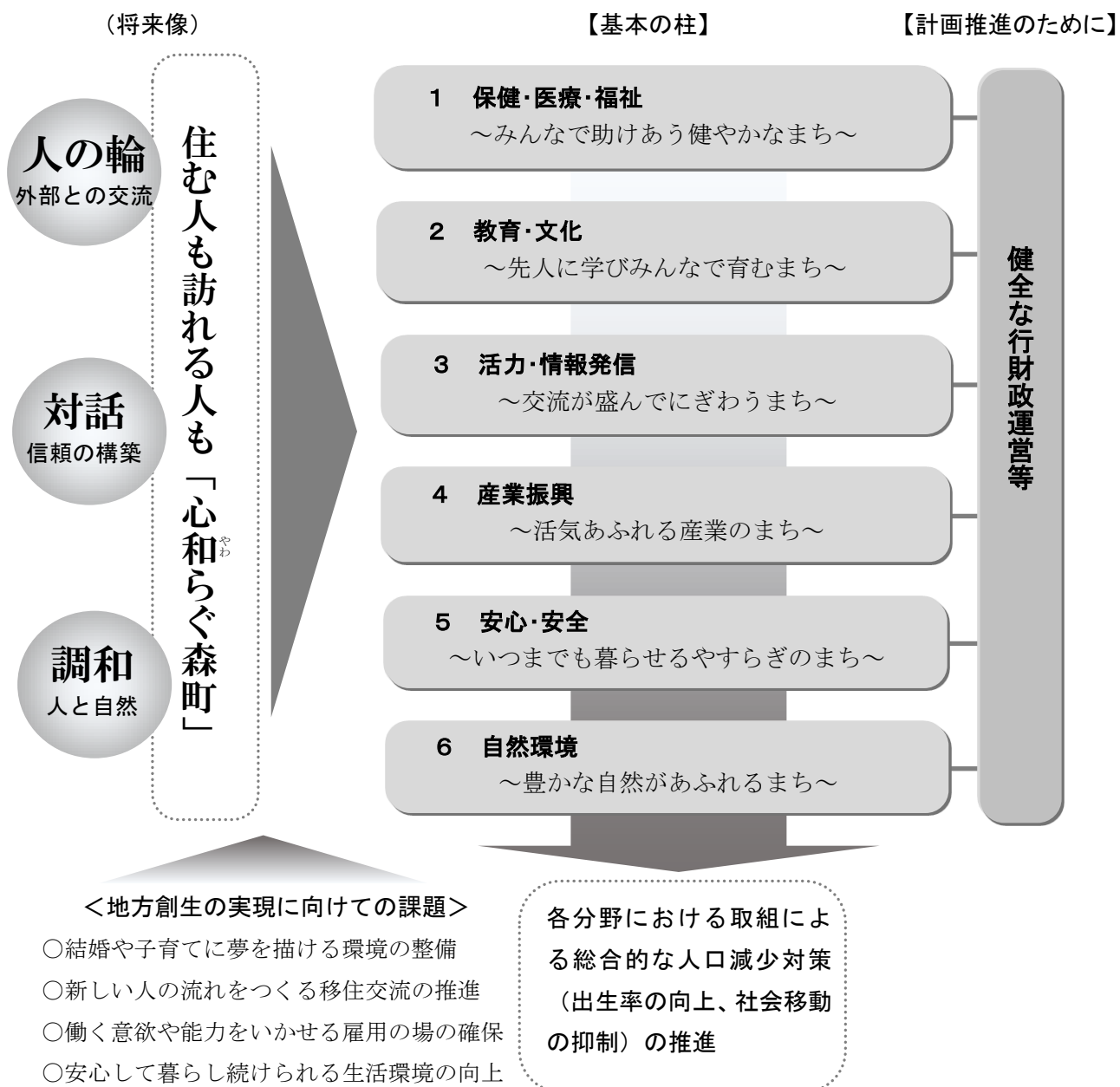
将来像は、町民や行政がまちづくりに取り組むにあたって、目指すまちの姿であるとともに、森町を全国にアピールしていくものでもあります。



第2章 まちづくりの基本目標

まちの将来像及び地方創生の実現に向けて、次の 10 年先を見据え各分野で取り組むまちづくりの基本的な方向性を示すため、下図の体系のとおり、分野ごとのまちづくり方針となる基本の柱と、各柱ごとの取り組みの実現のために必要な事項を定めます。

■まちづくりの基本目標設定概念図



基本の柱 1 保健・医療・福祉

～みんなで助けあう健やかなまち～

- ・年代の違いや障がいの有無にとらわれることなく、すべての町民が、地域の支えあいやふれあいなどを通して、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる社会環境を整えます。
- ・森町で子供が生まれ、そして健やかに育ち、森町に住み続けられるようにします。
- ・お達者度上位の町を町内外に積極的にPRすると同時に、高齢者等が社会で活躍できる環境づくりを進めます。
- ・三世代同居率の高さを踏まえ、各世代に寄り添った支援策を構築していきます。

(施策の基本方向)

- いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる
- 「お達者」で暮らせるまちをつくる
- 子育て・子育てしやすいまちをつくる

基本の柱 2 教育・文化

～先人に学びみんなで育むまち～

- ・地域固有の資源や文化の価値・魅力を再認識するとともに、地域への愛着を深め、行政・町民が一体となって「ひと」を育てていきます。
- ・多世代居住の家族形態、元気な高齢者が多く住まう地域特性をいかし、学校・家庭・地域が、それぞれの役割を果たしつつ、協力する中で、地域ぐるみの人づくりを進めます。
- ・「森」と「水」に育まれた、地域のもつ貴重な歴史・文化の保護と継承に努めていきます。また、こうした歴史・文化資源を背景に、まちや地域への誇りや愛着を高めていきます。また、すべての人が身近に感じることができるよう学びの場や環境づくりに努めていきます。

(施策の基本方向)

- 「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる
- 歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる

基本の柱3 活力・情報発信

～交流が盛んでにぎわうまち～

- ・様々な手段を活用して、森町の潜在的な資源・魅力を見直し、積極的に情報発信することで、新しい人の流れをつくることによる人々の交流を活性化します。
- ・新東名高速道路の開通による交通アクセスの向上を最大限にいかす中で、多くの人が森町を訪れる出会いと交流の機会を創出するとともに、訪れた人が安心して快適に滞在できるようなまちづくりを進めます。
- ・女性や若い世代の視点を大切にし、さらなる森町への関心度を高めていきながら、様々な人々に「選んでもらえる」ような、まちづくりを進めます。

(施策の基本方向)

- 調和のとれた居心地のよいまちをつくる
- 町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる
- 地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる

基本の柱4 産業振興

～活気あふれる産業のまち～

- ・先人が築き、地域に根付かせてきた農業・林業・商業・工業の各産業をさらに発展させるため、経営の安定化や人材の育成、相談体制の充実等に努めるとともに、高付加価値化や新技術の導入など創意工夫に満ちた取組を支援していきます。
- ・新東名高速道路の開通に伴う新たな連携・交流に資するまちの拠点形成を促進するため、森掛川インターチェンジ及び遠州森町スマートインターチェンジ周辺の基盤整備や新たな企業の進出を誘導していきます。

(施策の基本方向)

- 活力が持続できるまちをつくる
- 新たな活力が生まれるまちをつくる

基本の柱5 安心・安全

～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

- ・自然災害への備えや、日常生活を脅かす事故や犯罪などの防止に努めます。
- ・地域の美化や安心・安全の確保、構築に向けて、行政とともに、地域の住民相互の支え合いを促進します。
- ・予想される南海トラフ巨大地震などの自然災害から町民の生命・財産を守るため、森町地域防災計画に基づき、ハード及びソフトの両面からの対策を引き続き実施していきます。
- ・現在、静岡県と県内市町で内陸のフロンティア構想(内陸のフロンティアを拓く取組)を推進しています。この構想は、防災・減災機能の充実・強化や地域資源を活用した新しい産業の創出・集積等を基本目標に掲げています。その中で、森町は津波の心配はない内陸部に位置していることから、災害に強いまちとしてアピールしていきます。

(施策の基本方向)

- 安全・快適に暮らせるまちをつくる
- 災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる
- コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる

基本の柱6 自然環境

～豊かな自然があふれるまち～

- ・住む人や訪れる人に対して、やすらぎと明日への活力を与えてくれる豊かで美しい自然環境の保全に努め、森町の貴重な財産として守っていきます。
- ・地球環境保全の視点にたった、環境にやさしいまちづくりを継続するとともに、まち（市街地）と緑のバランスを保ち、うるおいある豊かな生活環境を整えます。

(施策の基本方向)

- 緑豊かな自然あふれるまちをつくる
- 自然環境と共存するまちをつくる

基本構想の推進に向けて

本構想の推進に向けて、基本的な視点を以下に示します。

●健全な行財政運営の推進

全般的な行財政運営にあたって、施策・事業の計画策定(Plan)、推進(Do)、評価(Check)、見直し・改善(Action)のPDCAサイクルに基づき、より効果の高い施策・事業の展開を図るとともに、事業の進捗及び効果検証については、町民や外部有識者の参画を得て進めます。

町内産業の活性化や、継続的な町税の徴収率向上、町有財産の有効活用などを進め、安定した行政運営のための財源確保に努めます。

●広域連携・交流の推進

住民サービスの向上を図るため、公共施設の相互利用や公共サービスの共通化などをさらに発展・充実させ、効率的で効果的な広域行政を推進します。

「新東名高速道路の開通による利便性の向上」や「遠州の小京都のまちづくり」をいかした広域連携を進めるとともに、移住・定住等の交流促進を図ります。

●協働のまちづくりの推進

町民ニーズが多様化、個別化する中、より豊かな生活を築いていくため、協働による取組をより一層推進し、多様な主体が新しい公共の担い手として、より一体となったまちづくりを推進していきます。

●情報通信技術(ICT)の活用推進

人口減少や少子高齢社会が進行し、経済成長等もこれまで以上の上昇は見込みにくい中、開発が進む情報通信技術(ICT)に着目し、より生活に身近な行政サービス展開のため、ICTのさらなる活用を進めていきます。

